

大阪大谷大学 教職教育センター紀要

第 11 号

《論文》

- 領域「環境」に重点を置いた「遊び」から生活科へ
何をどう接続するのか
——乳幼児期と低学年児童期とを接続する科学教育の新たな視点——
小谷 卓也… 1

《研究ノート》

- 本学学生の筆順修得状況
——原因と対策を通して——
金川廣一郎… 22

《特別寄稿》

- 「教員をめざす学生に求めたい力」を考える
——Grit（やり抜く力）をキーワードに——
藤村 裕爾… 35

《事業報告》

- 教職基礎演習ⅡB、ⅡDの取り組み
浦部 孝英… 43
「教師のお仕事入門」（錦郡小学校、彼方小学校での活動から）
中島 智子… 47

《活動報告》

- 令和元年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告
教職教育センター… 53
-

2020年3月

大阪大谷大学教職教育センター

Osaka Ohtani University

Teacher Training Support Center Bulletin

Volume 11

《Article》

- How Do We Create Scientific Activities Applicable to
Exploration Both in Early Elementary School Years and Preschool? :
A Novel Theoretical Approach to Science Education in Early Childhood KOTANI Takuya 1

《Research Note》

- University Students' Proficiency in Stroke Order :
Factors and Methods for Improvement KANAGAWA Koichiro 22

《Special Note》

- A Study of the Abilities Needed for Prospective Teachers :
The Concept of “GRIT (Guts, Resilience, Initiative and Tenacity)” FUJIMURA Yuji 35

《Reports》

- The Report of the Activities in “Teacher Training Basic Seminar IIB / IID” URABE Takahide 43
- “Introduction of Teacher's Experiences” :
The cases of Activities in Nishikori Elementary School and Ochikata Elementary School
NAKAJIMA Tomoko 47
- Osaka Ohtani University Teacher Training Support Center Annual Report – 2019
Teaching Training Support Center 53
-

Teacher Training Support Center
Osaka Ohtani University

【特別寄稿】

「教員をめざす学生に求めたい力」を考える

——Grit（やり抜く力）をキーワードに——

藤村 裕爾*

1. はじめに ——教員をめざす学生に求められる力——

これから述べようとするのは、長い間、うまく言い表せなかった思いが、「Grit（やり抜く力）」という考え方を知って、「なるほど！」と、合点がいった話である。

「教員になりたい！」という学生の希望を適えたい、より多くの学生を教員として送り出したい、そんな思いで6年間学生の指導に取り組んできた。その間、「ぜひ教員として学校現場に送り出したい!」、「きっと学校現場では必要な人材として受け入れられる!」と思える学生に出会ってきた。そんな学生は、どんな力を身に付けているのか、その力はどのようにして身につけてきたのか。一方で、教員になりたいと希望をもちながらも、半ばにして「モチベーションが上がらない、やる気が出てこない、勉強する気が起らない」と嘆き、挫折していく学生も見てきた。彼らに何が足りないのか。日頃から抱いてきたことである。「Grit」という言葉をキーワードとして、関係する論文を紹介しつつ、考えてみたい。

「Grit」、この言葉は、つい最近、卒業論文の口頭試問の席で、副査の先生から「Grit（やり抜く力）」に関する研究¹⁾を教えていただいて、知った次第である。北海道教育大学の櫻井らは、研究の主旨を、「教員養成課程を有する大学にとって、教員採用率の向上は急務である。この課題に対するアプローチの一例としては、教員採用の成否を規定する個人差要因を同定した上で、その特性を向上させるような改革をおこなうといったものが考えられるだろう。では、どのような特性を持つ学生が教員採用試験を突破しやすいのだろうか。一つの答えは、Gritである。」と述べている。「Grit」については、後に説明する。その前に、少々、回り道になるが、教員に求められる資質・能力について、これまで、教育行政が求めてきたものについて、紹介する。

教員に求められる資質・能力として、中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」（平成24年8月28日）では、①「教職に対する責任

*大阪大谷大学教職教育センター長

感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力（使命感や責任感、教育的愛情）」、②「専門職としての高度な知識・技能」、③「総合的な人間力」の三点をあげている。養成段階にある大学の教員養成課程は、それらの「最低限の基礎的・基盤的な学修を行う段階」（中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」平成27年12月21日）として位置づけられている。また、教員採用選考の際、多くの自治体が示す「求める人物像」もこの三点であり、人物を重視した選考として、①と③の比重は大きい。

また、大阪府教育庁では、平成28年度に、教育委員会と教員養成を担う大学等とで構成する「教員育成協議会」を新たに設置し、養成・採用・研修を通じて一体的に教員の資質・能力の向上に取り組むための「指標」（大阪府教員等育成指標「OSAKA 教職スタンダード」）を策定した。そこには、大学での教員養成期における到達目標として、採用時までに5つの資質・能力「Ⅰ. 教育への情熱と教育者にふさわしい基礎的素養」、「Ⅱ. 社会人としての基礎的素養」、「Ⅲ. 学校組織の一員としての行動力や企画力、調整力」、「Ⅳ. 子どもたちを伸ばすことができる授業力、教科の指導力」、「Ⅴ. 子どもの自尊感情を高め、集団づくりなどを指導する力」を示し、それぞれを3項目に細分化し、15項目が（15項目も）が設定されている。

教員に求められる資質・能力として、これらの大切さは異論のないところである。しかし、これだけの資質・能力を身につけることができる人は、どのような力をもった人なのか。これらの資質・能力を身につけるためには、「基礎体力」のような力が必要なのではないか。また、そのような力はどうすれば身に付けることができるのか。特に、努力の方向性が見えるようなシンプルな言い表しようはないのか。そんな思いでいたところ、偶々、出会ったのが「Grit（やり抜く力）」である。

2. Grit（やり抜く力）について

——教員採用試験に取り組む学生の姿と重ね合わせて——

「Grit（やり抜く力）」は、ペンシルベニア大学心理学部の Angela Duckworth²⁾が提唱した「人生のあらゆる成功を決める究極の能力」である。Angela Duckworth は、並外れて優秀な学生が入学する米国陸軍士官学校の生徒が、過酷な訓練に耐えきれず5人に1人が中退してしまう現状を調査し、最後まで耐え抜くのはどんな力を有しているのかを研究テーマとした。そのほか、たくさんの成功者と呼ばれる人々（営業職 パブリックスクール生 大学生 等）にインタビューし、人がそれぞれの分野で成功し、偉業を達成するには、才能やIQよりも「Grit（やり抜く力）」が重要であり、それは才能のように固定したものではなく、努力によって変化するという科学的に突き止めたという。

Grit とは、どのような力なのかについては、Angela Duckworth の著書『GRIT The Power of

passion and Perseverance 人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける 神崎朗子
訳』（ダイヤモンド社 2016年9月8日）で紹介されている。Grit（やり抜く力）とは、ひとつの重要な目標に向かって、長年の努力を続けることであり、顕著な功績を収めた人たちはみな、Grit（やり抜く力）が強く、その力を構成する「情熱」と「粘り強さ」をあわせもった人たちだという。その一部を著書から紹介しながら、出会った学生の姿を重ね合わせていきたい。

(1) 「情熱」について——「情熱」とは、ひとつのことに専念すること——

「情熱」という言葉について著者は次のように述べている。「情熱という言葉は、激しい感情を表すのに使われることが多いので、不思議に思うかもしれない。多くの人は情熱を、夢中や熱中と同じ言葉だと思っている。しかし、偉業を成し遂げた人たちに、成功するために必要なものは何ですか？とたずねると、夢中でやることや熱中することと答える人はほとんどいない。多くの人が口にするのは熱心さではなく、ひとつのことにじっくりと長いあいだ取り組む姿勢なのだという。」著者は「情熱」という言葉より、もっと適切な言葉があるかもしれないとも述べている。大切なのは、情熱を持続することであり、その情熱は「興味」と「目的」によって支えられてこそ、持続するのだという。

「興味」とは、自分のやりたいこと、一番楽しいと思えることであり、興味の対象は、外の世界と交流するなかで生まれ、最初に興味をもった「きっかけ」の後に、何度も繰り返し経験し、そのような興味の対象を見つけ自分のやっていることを心から楽しんでこそ「情熱」が生まれるという。

「目的」とは、個人的な興味からスタートして真剣に取り組むことにより、個人的な興味からスタートしたことが、ほかの人々にとって重要な意味をもち、他の人々と深くつながっているという確信に到達したものをいう。自分が取り組もうとしていることが、自分という枠を超えて、人々と深くつながっていると確信してこそ、「情熱」が実を結ぶという。目的意識を感じないものに興味を持ち続けるのが難しいのは当然であろう。

以上のことを、これまで出会った学生の姿に重ねてみると——

教員をめざす学生の多くは、人生の早い段階で教職への進路を選択している。その志望動機こそ、教員を続けることのできる拠り所、核心となるものである。自身のこれまでを振り返り、内面と向き合い、「教員になろう」と思った「きっかけ」を再考し、確かな志望動機に高めていく。この作業の第一歩は「キミは、なぜ、教員をめざすのか」という問いへの答えを探すことから始まる。

この問いに一番多い回答は、尊敬できる教員との出会いである。たとえば、「小学校時代の

担任の先生との出会いがきっかけです。わたしがいじめられてつらかったとき、・・・と、その当時のつらい経験を話し始める。「キミは、どんな子どもだった?」「その学級はどんな様子だった?」「その先生はどんな先生だった?」「その時、どんな言葉かけをしてくれた?」「どんな働きかけをしてくれた?」、「キミは、どんなことを感じた?」等々やりとりを進めながら、「そのことから考える先生が備えなければならない資質って、何だろう?」「先生って、子どもにとってどんな存在なんだろうか?」等々、体験を振り返るやりとりを進めながら、「きっかけ」をもとに「教職の意義」を考えさせていく。そして、「どんな先生になりたい?」、「そんな先生になるためには、どんな力が必要なんだろうか?」、「そんな先生になるために、キミにはどんな資質、強みがある?」など、ボランティアやインターンシップ、教育実習の体験などを思い起こしながら 漠然とした教職への憧憬を、具体的な教員像として鮮明化し、教員との出会いが子どもの人生にとってどれだけ意味のあるものなのか、教職の使命感や責任感を考えさせ、「確かな志望動機」へと高めていく。

子どもとの向き合い方や教員としての姿勢の根幹にあり拠り所となるもの、また、教員となり直面する様々な困難を乗り越えていく時、あるいは時には迷い自信を失って「自分は教員に向いているのだろうか」と初心が揺らいだ時に立ち返る原点は、「なぜ、私は教員をめざしたのか、何のために教員をめざしたのか、何をやりたいと考えたのか」という「確かな志望動機」だと考える。

以下は、志望動機について、学生とのやりとりの要約である。

私には知的障害の兄がいます。兄はいつも周りの人に助けてもらっていました。しかし、特別支援学校に入学し、先生が兄の特性をいち早く発見してくれたことで、これまでできなかったこともできるようになり、一歩ずつ自立に近づくことができました。このことは私にとって大きな驚きでした。専門的な知識や技能を持ち、温かく兄の自立を支援し、家族も支えてくれる先生の存在の大きさを実感し将来の仕事として特別支援学校の教員になりたいと強く思うようになりました。

支援学校で子どもを教育する中で、社会の人たちの無関心や偏見をなくすことにも力を入れ、障害のある子どもたちも社会の中で、イキイキできる社会をつくることに取り組みたいと思っています。

この学生は、教員との出会いをきっかけに、自分なりに教職の意義を確立し、自分という枠を超えて社会とのつながりを志向している。「興味」と「目的」に支えられた「情熱」と言えるのではないか。

(2) 「粘り強さ」について——挫けそうになったときに、どうすればよいのか——

粘り強さとは、困難や挫折を味わっても諦めずに努力を続けることである。教員採用試験の

受験のための準備で、印象に残っている学生が二人いる。

一人は、とにかく教員になりたいという一心で、そのためにはどの自治体でもよいという考えから、5つの自治体を受験した。これだけの自治体を受験するためには、用意周到な準備が必要である。まずは、情報を集め計画を立て、それぞれの自治体が求める人物像にあわせたエントリーシートの作成、面接の準備、多様な受験科目に対応した勉強の準備が必要である。それとともに、これだけ受験すると、受験地までの旅費や宿泊費は相当なものである。そのために、3回生のアルバイトで貯金をしていた。4回生では、アルバイトを止め受験準備に集中した。また、ボランティアとして地元の「子ども食堂」で活動していた。この計画性と長期にわたる継続した努力「粘り強さ」は、如何して身に付けたのか。

もう一人は、3回生の後半から、教職教育センターの個人学習室で、ほぼ毎晩8時過ぎまで、一人で筆答試験勉強をしていた。部屋に一人になっても続けていた。勉強が終われば、雨の日もバイクで山を越えて1時間の帰途に着く。受験勉強の孤独や不安に耐え、継続した努力ができる粘り強さは、どこから生まれてくるのか。

参考になるのは、Angela Duckworth が述べている「やり抜く力」を有している人の共通する4つの特徴である。

その特徴は、第一に、先に述べた「興味」「目的」である。目標に向かって努力することに喜びや意義を感じていること。「ぜひ、教員になりたい」「教員になって、こんなことをやってみたい」という志望動機の強さである。

第二に、「希望」をもつことである。希望は困難に立ち向かうための「粘り強さ」の源でもある。希望は、困難にぶつかり不安になっても、ひたすら自分の道を歩み続けるために必要不可欠のものである。希望をもつための秘訣は、①成長思考を持つこと。人は変えられる、成長できると信じて一生懸命努力すれば、自分の能力をもっと伸ばすことが可能である。②楽観的に考えること。意識して悲観的な考え方を止め、物事を楽観的に捉え、考えるトレーニングをすること。

第三に、意図的な「練習」をすることである。「粘り強さ」の一つの表れは「昨日よりも上手になるように」と日々の努力を怠らないこと。だから、一つ分野に深く興味を持ったら、自分のスキルを上回る目標を設定しては、それをクリアする「練習」に励む必要がある。ただ、やみくもに練習を重ねるのではなく、明確な目標を設定したうえで自分の弱点を認識し、それを克服するための努力を日々繰り返す「意図的な練習」をすることが重要である。

3. 最後に ——では、Grit はどのようにして身につけることができるのか——

Angela Duckworth も櫻井らの論文も、成功した人が身につけている力は Grit であり、それ

をどのように測定するのかについて追究した研究である。

ただ、教員採用試験に向けて指導をおこない、優秀な、より多くの学生を学校現場に送り出したい、採用率を高めたいと考えている立場として、それでは「具体的にどうすれば Grit を身につけることができるのか?」「大学の教育で可能なのだろうか?」という問題が残る。

この点について、参考になる考えが二つある。

その一つは、前述の論文の著者の櫻井らの研究グループの以下の論文である³⁾。

では、どのような介入をおこなえば Grit を高めることができるのだろうか。この問いを直接検証した研究は未だに存在しないが、Eskreis-Winkler et.al (2016) は示唆的な知見を示している。この研究では期待価値理論に基づき、入念な修練 (deliberate practice: 困難だが効果の高い練習) に対する期待と価値を変えることで、学業達成を高めることに成功している。具体的には、成功の鍵は努力にあることを強調するとともに (期待の上昇)、努力に伴う苦痛は成功に向かって前進している証拠であると教示した (コストの低下 = 価値の上昇)。結果、このような介入を受けた参加者は、統制群よりも入念な修練をおこない、また、GPA も高くなったことが確認された。困難な練習をやり抜くことで Grit を育むと考えるならば、この種の介入を用いることで人々の Grit を高めることができるかもしれない。

つまりは、「やり抜いた経験をした人」が、「やり抜く力を身につけることができる」ということなのか? 何か、自己撞着の感はあるが、この点について、Angela Duckworth は、子ども時代の課外活動の効用を述べている。ここでいう課外活動とは、学業とは別に、大変だけれど楽しいと思え、やる気をもって取り組める活動 (スポーツや習い事など) である。「青年期に何らかの活動を最後までやり通すことは、やり抜く力を要するとともに、やり抜く力を鍛える」、「もがきながらも努力を続けることが進歩につながり、それによって自信が生まれ、もっと大変なことにも挑戦できるようになる」という。

もう一つは、「習慣」である。日頃から多くの学生と接していて、つくづく思うことがある。これまでの育ってきた過程で、自己の課題に面と向かい努力する「習慣」を身につける機会があったのだろうか? 少なくとも「やり抜く力」を発揮するステージに立ちスタートした時に、早速、必要となってくるのは、地道に努力する習慣をもっているか否かではないか。「学習習慣」について、「ハビトゥス」という言葉を知ったのは、志水の著書からである⁴⁾。志水氏は、教育社会学者として、学力問題に取り組んでおられる。著書の中で述べられているハビトゥスについて要約すると、

ハビトゥスとは、無意識下の領域までも含んだ習慣化された行動を意味し、そのレベルをクリアしてこそ確かな学力の形成が約束されると考えたいのである。学力形成の問題にとって決定的に重要なのは習慣づけの問題であると考えている。学習意欲の問題につい

て、近年の論調では「子どもたちの学習意欲の低下こそが最大の問題である」と語られることが多い。しかしながら、学力問題の核心は、「子どもたちの意欲をどう高めるか」という「意識」の問題では決してなく、「子どもたちの習慣づけをどう図るか」という「行動」レベルの問題であると考えからである。確たる証拠は提示できないが、私の感じでは学力の基礎を形成するポイントは、ちょうどその間の時期にあたる3～6、7歳ぐらいにあたるのではないかと思う。その時期に、学力形成の基礎ができる。教育社会学的に言うなら、「精密コード」が獲得され、「学習ハビトゥス」が身体化される。象徴的に言うなら、大人に言われて仕方なく宿題をやるというレベルでは不十分なのであって、「宿題をしないと気持ち悪くて寝られない」と感じる子どもに育てる必要があるということである。

最後に、このように考えてきて、さて、教職をめざす学生に対して、何ができるのか。

興味と目的を掘り起こし、希望を抱かせ、練習に励むことができるように、「成功の鍵は努力にあることを強調」し、めげそうになったときには、「努力に伴う苦痛は成功に向かって前進している証拠である」と叱咤激励して、「情熱」と「ねばり強さ」を inspire する。同時に、学習習慣形成のための指導を行う。

こう考えると、これまでの6年間にやってきたことなのではないかと思うと同時に、本来、これは教員となって、子どもたちに指導することではないのか。教員をめざす学生に対して行うべきことなのか、それができない学生を教員として送り出しているのだろうか、と思わずにはいられない。

Angela Duckworth が2007年に発表した Grit に関する論文は1000以上の論文に引用され、著書はベストセラーになるほど、ブームになっている。その一方で批判も多くあるという。Grit が唯一の成功の鍵でもないし、「何事も努力すれば何とかなる」というのもしんどい話である。Grit を持った強い学生だけが教員にふさわしいのか、とも思う。自分の弱さを自覚し、困難を前に逡巡し、しかし、それでも克服しようと足掻いている学生にも子どもの前に立って欲しいと思う。

まったくの心理学の門外漢が浅薄な理解で述べることではないと思いつつ、見通しのないまま、筆を執り始めた（しかし、なかなか「オチ」が見つからなかった・・・）。最後まで読んでいただいた方に申し訳なく思っています。

この拙文が、退職に寄せた寄稿にふさわしいのかという逡巡はありますが、末筆ながら、これまでお世話になった大学関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。

注

1) 櫻井良祐・渡辺匠（北海道教育大学）第7回大学情報・機関調査研究集会「やり抜く力は入学選

「教員をめざす学生に求めたい力」を考える

抜に应用可能か？」(発表)平成30年8月18・19日

櫻井らの研究は「どのような特性を持つ学生が教員採用試験を突破しやすいのだろうか」という問題意識のもとに、Grit Scale を用いて、入学者選抜段階において Grit の应用可能性を検証したものである。

- 2) Angela Duckworth ペンシルベニア大学心理学部教授。近年、アメリカの教育界で重要視されている「グリット」(やり抜く力)研究の第一人者。2013年、マッカーサー賞(別名「天才賞」)受賞。教育界、ビジネス界、スポーツ界のみならず、ホワイトハウス、世界銀行、経済協力開発機構(OECD)、米国陸軍士官学校など、幅広い分野のリーダーたちから「やり抜く力」を伸ばすためのアドバイスを求められ、助言や講演を行っている。ハーバード大学(神経生物学専攻)を優秀な成績で卒業後、マッキンゼーの経営コンサルタント職を経て、公立中学校の数学の教員となる。その後、ペンシルベニア大学員で博士号(心理学)を取得する。(上記図書の著者紹介から)
- 3) 櫻井良祐・渡辺匠・樋口収・半澤礼之・蛭田真一 第6回大学情報・機関調査研究集会「やり抜く力が学びを促す-Grit が学業成績に与える影響」(発表)平成29年8月19・20日
- 4) 志水宏吉(大阪大学大学院人間科学研究科教授)「学力を育てる」岩波新書 2005/11/18

【事業報告】

教職基礎演習ⅡB、ⅡDの取り組み

浦部 孝英*

1. はじめに

2019年11月14日（木）の教育新聞付録教員採用ジャーナルによると、「2019年夏に実施された2020年度公立学校教員採用選考試験で、全国66県市のうち、7割以上の県市で最終合格倍率が下がった。全国の合格倍率は3.7倍となり、2012年度以降で最も低い結果となった。」という。

小学校の結果で見ると、最終倍率が2倍にも満たないところが15県市、2倍台となったところが27県市となっている。最低倍率が1.3倍という県市も複数発生している。

優秀な人材を確保したい自治体側と、一人でも多く現役合格を勝ち取ってほしい大学側の双方にとって、さまざまな意味を込めて、ため息の出そうな結果となった。

大阪大谷大学教職教育センター（以下「センター」という）では、本年度も引き続き、教職に適した優秀な人材養成のための事業を多角的に展開しているが、本稿では、センターが継続実施しているサポート事業のうち、「キャリア教育科目」として開設されている「教職基礎演習 面接」の科目について、本年度前期に開講した教職基礎演習ⅡBおよび教職基礎演習ⅡDの取り組みの一端をまとめて報告することにする。

2. 講義科目内容

科目名称	期	対象学年	内 容
教職基礎演習ⅡA （面接）	後期	2年生 以上	面接に関する基礎的な内容について、演習形式で授業を行います。
・教職基礎演習ⅡB （面接）	前期	3年生 以上	面接に関する予備知識を備えた者を対象とし、演習形式で授業を行います。
教職基礎演習ⅡC （面接）	後期	3年生 以上	面接に関する予備知識を備えた者を対象とし、演習形式で授業を行います。
・教職基礎演習ⅡD （面接）	前期	4年生 以上	面接に関する予備知識を備えた者を対象とし、演習形式で授業を行います。教員採用試験直前期対策。

（2019年度教職教育センターハンドブック5ページより抜粋）

*大阪大谷大学教職教育センター担当特任教授

3. シラバス内容（抜粋）

- (1) 科目名称 教職基礎演習ⅡB およびⅡD（面接）
- (2) 曜日時限 前期 水曜2限 それぞれ隔週実施
- (3) 担当教員 中島 智子、浦部 孝英
- (4) 授業テーマ
 - ・「彼を知り己を知れば百戦殆うからず」・・・教員採用選考テストの面接の実態を知るとともに、なぜ教員になりたいのかの自己分析を深める。
 - ・面接に必要な基礎的知識及び基本的な実践力を育むために、毎回ほぼ本番と同じレベルで面接練習を行う。
- (5) 講義概要
 - ・教員に必要とされる資質能力の一端を「面接」で見極めようとする傾向はますます増加しています。この授業では様々なタイプの面接演習を8回受講します。
 - ・演習を通して、自分の志望動機と教職の使命の一致点を探っていくことになります。予習復習を怠らなければ面接の基礎的な力を身につけることができます。
 - ・演習時には課題についてグループディスカッションを行い、その結論をグループごとに発表します。
 - ・定員を設定するので、受講できない場合があります。
- (6) 到達目標
 - ・教員採用選考テストにおける面接の基礎知識を獲得し、基本的な対応力を身につけることができる。
- (7) 評価基準
 - (可) 積極的に授業に臨み、面接の実態を正しく理解して面接練習に取り組むことができる。
 - (秀) 積極的に授業に臨み、面接の実態を正しく理解して面接練習に取り組むことができる。また、的確な自己分析に基づいて現時点での志望動機をわかりやすく表現することができる。さらに、さまざまな教育課題の本質を踏まえながら自分の特徴を生かした自己PRができ、任命権者の求める人物像に根拠をもって迫ることができる。
- (8) 履修上の注意
 - ・事前、事後学習を必ず行って授業に臨んでください。周到的な準備があつてこそ「面接力」が身につきます。
 - ・ⅡBは、2年生後期の教職基礎演習ⅡA履修後に位置付く授業で、ⅡDは、3年生後期の教職基礎演習ⅡC履修後に位置付く授業ですが、それらを履修していなくても履修できま

す。

- ・受講条件等の詳細については、春季の教職オリエンテーション時に説明するので、登録前に必ず確認してください。
- ・本授業では、教育委員会事務局で採用実務経験のある2名の教員が、それを活かして、面接全般について実践的な授業を行います。

4. 授業を受けた学生の振り返り

一人での架空練習ではなく、実際に人前に出て注視される中、本物の面接官だった人物が、教員採用選考テスト本番と同じ空気感を再現しての臨場感あふれる面接演習となるので、面接終了直後の学生の振り返りでは、学生自身も予想していなかった身体の変化反応を口にする感想が続出した。

- ・手汗がびっくりするくらい出て、ハンパなく緊張することがわかった。
- ・想定外の質問だと、本当に頭が真っ白になってしまうことにびっくりして何を話しているのかさっぱりわからなくなった。
- ・座っているのに、こんなに足が震えるとは。身体も傾いたままで変な感じだった。
- ・声が震え、喉がカラカラになってしまった。
- ・自然に涙が出てきてしまってどうしようもなかった。
- ・自分の答えの軸がぶれると、口から思ってもいないような言葉が出てきてしまって焦った。
- ・「笑顔で、元気に、挨拶すること」なんか簡単だと思っていたが、ノックして扉を開けると、顔も体もカチンコチンにこわばってしまって、別人になってしまった。
- ・目がきょろきょろしているのが自分でもわかった。内心の自信のなさが表情に繋がることがわかった。「アイコンタクト」は、形ではなく、心のつながりだと思った。

しかし、受講を重ねるごとに面接に慣れ、学びが深まってくると、振り返りの内容に変化が出てくるようになった。

- ・想定外の質問が来ても、どのように答えたらよいか考える余裕が身についた。
- ・時々、面接官の次の質問が予想できるようになった。
- ・「人の振り見て我が振り直せ」というように、良くも悪くも、人の面接を見て気付くことが多かった。気付いたそれらのことを自分に当てはめていくようになった。

- はじめのうちは、答えの内容が「木を見て森を見ず」的なもので精一杯であったが、面接官の立場に立つことで、「ハウセンカの一生」のように長いスパンで、比喩的で連鎖的な答も少し言えるようになってうれしかった。

5. 本事業の成果 ——学生による授業評価アンケート結果より——

「大阪大谷大学 2019年度 前期 学生による授業評価アンケート結果集計表」から、本事業の実施成果を測るうえで参考になるとと思われる設問項目を抜粋して掲載する。

■教職基礎演習ⅡB（アンケート回答人数11人）

評価5：大いにそう思う 4：そう思う 3：普通 2：あまりそう思わない 1：そう思わない

	設問文	評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1	意欲的に授業に参加した	8	2	1	0	0
2	授業内容はわかりやすかった	8	3	0	0	0
3	聞きやすい話し方だった	9	2	0	0	0
4	主体的・能動的な学習を促す様な授業であった	9	1	0	0	0
5	この授業を受けて満足した	11	0	0	0	0
6	これまでの知識・教養が深まった、あるいは新しい考え方・発想を持った	10	1	0	0	0

■教職基礎演習ⅡD（アンケート回答人数13人）

	設問文	評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1
1	意欲的に授業に参加した	8	3	2	0	0
2	授業内容はわかりやすかった	8	5	0	0	0
3	聞きやすい話し方だった	10	3	0	0	0
4	主体的・能動的な学習を促す様な授業であった	11	2	0	0	0
5	この授業を受けて満足した	11	2	0	0	0
6	これまでの知識・教養が深まった、あるいは新しい考え方・発想を持った	11	2	0	0	0

アンケート結果より、教職基礎演習ⅡB、ⅡDともに、センターの到達目標である「教員採用選考テストにおける面接の基礎知識を獲得し、基本的な対応力を身につけることができる。」ということについて、学生から一定の評価を得ることが出来たと考えられる。

今後も、学生にとってさらに有益な事業の推進に関係職員一丸となって取り組みたい。

【事業報告】

「教師のお仕事入門」 (錦郡小学校、彼方小学校での活動から)

中島 智子*

はじめに

昨年度(2018年度)は「教師のお仕事入門」開始10年目であり、10年間の経緯を概観する内容で報告した。それを踏まえて、以下、錦郡小学校、彼方小学校での今年度の活動を中心に報告する。

I 2019(令和元)年度の実施状況

1. 目的

- ・小学校・中学校・高等学校を訪問し、学校現場の様子を知る。
- ・児童・生徒との交流を深める。

2. 対象

- ・職業選択の一つとして、教職を視野に入れている学生。主に一回生。

3. 実施日程及び参加学生人数

◎小学校

○富田林市立錦郡小学校 令和元年9月17日(火) 28人

○富田林市立彼方小学校 令和元年9月18日(水) 10人

◎中高一貫校

○大阪府立富田林中学校・高等学校 令和元年9月10日(火) 6人

◎高等学校

○大阪府立河南高等学校 令和元年9月18日(水) 8人

*大阪大谷大学教職教育センター担当特任教授

Ⅱ 錦郡小学校ー9月17日実施

昨年度は、2名という少人数であったが、今年度は30名の希望者があった。当日は、2名欠席したため、28人の参加で実施した。

【事前指導】

例年どおり、以下の内容で学生に説明した。

<p>□目的</p> <ul style="list-style-type: none">・小学校の現場を訪問し、学校の様子を知る。・児童との交流を深める。 <p style="text-align: center;">あらかじめ、学校までの道順を確認し、下見しておいてください。</p> <p>□注意 子どもたちの学習の場に行くことを忘れずに！</p> <ul style="list-style-type: none">★時間厳守のこと★服装は、体操服（例：白っぽいポロシャツ＋ジャージなど） ※中に着用するTシャツ等は、無地で白っぽいもの★装飾品（イヤリング・ピアス、リング、ペンダント等）は不可★頭髪にも気をつける（染髪、顔が隠れるヘアスタイルは不可）★靴は、活動しやすい運動靴・スニーカー等★必ず、徒歩で行くこと <p>□持ち物 筆記用具 上履き（体育館シューズ等） ※スリッパは不可</p>
--

【日程】

- 11:00 錦郡小学校校門前集合
- 11:10 学校概要の説明（校長先生より）
- 11:35～14:35 授業参観及び児童との交流
 - 11:35 4時間目
 - 12:30 給食
 - 13:15 掃除
 - 13:30 昼休み
 - 13:50 5時間目
- 14:35 まとめ
- 15:00 現地解散

【当日のようす】

参加人数が多数であったので、事前に教頭先生にご相談し、支援学級を含む各クラス2～3名の配置になるよう予め割り振りを決めておいた。

欠席者以外の遅刻はなく、集合状況はよかった。この日は例年になく暑かったため、一名の学生が教室で授業を参観中に体調を崩し、小学校の保健室で休ませていただくこととなり、その後教職教育センター職員の引率により早退させた。幸いその後、学生の体調は回復した。

全体として大変有意義な一日であったが、その他にも何点か例年になく事態が生じ、小学校には大変ご迷惑をおかけした。以下、列記する。

【課題事項】

- 1 事前指導にも関わらず、当日、髪を染めた状態で集合した学生が複数いた。
- 2 校内に時計を忘れた学生がいた。小学校からの連絡により、後日取りにいった。
- 3 体調を崩した学生の保健室使用及び早退。(上記)

Ⅲ 彼方小学校－9月18日実施

当初、昨年度と同じく6月実施の予定で募集をかけたが、参加希望者が0人であった為、再度学校にお願いして秋の実施に変更したところ、11名の希望者があった。

当日は1名欠席し、10人の参加で実施した。授業実施日ではない9月の実施で、例年に比べ活動時間を長くすることができた。

【事前指導】

錦郡小学校と同様

【当日の日程】

- 11:00 彼方小学校校門前集合
- 11:10 学校概要の説明（教頭先生より）
- 11:40～15:20 授業参観及び児童との交流
- 11:40 4時間目
- 12:25 給食
- 13:10 昼休み
- 13:30 5時間目
- 14:30 6時間目－クラブ活動－
- 15:20 まとめ

15:30 現地解散

【当日のようす】

集合状況はよかった。今回はじめて、長い時間参加させていただくことができ、特にクラブ活動は、学生の希望によって振り分けていただいたのでどの学生も生き生きと参加していた。教頭先生には、事前に学生に向けたプリントまで作っていただいた。但し、錦郡小学校と同様、何点か課題が生じた。

【課題事項】

- 1 髪を染めた状態で集合した学生が居た。
- 2 校内にノートなどの忘れものをしてきた学生が居た。小学校からの連絡により、取りに行き行って学内掲示したが、未だ引き取り手がなく持ち主も不明。

IV 学生の感想から（抜粋）

参加したにも関わらず、感想文を提出していない学生が2名いるが、提出された感想文には、どれをとっても、とても有意義な一日であったことや小学校への感謝がつづられている。また、教師になりたいという思いが強くなったという内容も多い。以下、感想文からの抜粋である。

- 授業では、教師にとって全体を見る力と個別に丁寧に対応する力がとても大切であることを学ぶことができました。短い時間でしたが、先生と子どもたちが楽しそうに学校生活を送る様子を見学し、私も教師になりたいと再度強く思いなおすことができました。
- 私の自習といいますと、友達と喋るといのがほとんどでありました。しかし、こちらの子どもたちが黙々と学習に取り組んでいる姿を見て、感銘を受けるとともに、自らのお手本のように感じられました。
- 児童と先生もとても仲がいい雰囲気だったので、私も先生になったら、何でも話しやすいような先生になって、悩みの相談などもきちんと聞いて解決できるようになりたいです。
- 今回の体験を通して思ったことは、やっぱり私は子どもが好きだということと改めて教師という仕事をしたいということです。なので、なれるようにがんばっていきたいと思います。
- 昼休みはけいどろをしました。子どもたちが「先生、一緒に逃げよな！」って言ってくれたのが心を開いてくれたようでうれしかったです。他にも「先生！」って言ってくれたり、今までにない経験でした。
- 学校が楽しいということ、これ以上に素晴らしいものはないと思います。それにはやは

「教師のお仕事入門」

り、先生の力が必要になります。一人ひとり違う個性の中で一つのクラスを作る、築くということは難しいことではありますが、それが先生としての役割であって、やりがいでもあることがわかりました。

- なまの先生を見させていただき、自分の理想とする先生像が明確になった気がします。
- 貴重な体験ができて本当に感謝しかないです。先生の様子も見させてもらいましたが、ちゃんと注意する時は注意して、楽しむ時は楽しんでいて、自分がなりたい姿でした。自分ももっと勉強して、切り替えをしっかりと出来る教師を目指して頑張ろうと思います。

V 今後に向けて

新しい教育課程に移行する時期、受け入れる学校側にも様々な新たな課題が生じ、子どもの様子や学校の在り様も変化している。併せて気候の変動により暑さが増している今日、たとえば、帽子は必携である。今後の実施に向けては、そうした状況を踏まえて、十分な学校側との相談の上で、例年の実施にとらわれず実施内容等の検討が必要であると考えます。

また、実施する日以前に学生に会う機会が事前説明の場しかなく、個々の学生の状況を十分把握することなく当日を迎えることには不安を感じている。当日の体調不良などの場合を想定した対策、体制も必要である。

「お仕事入門」は、学生にとって教師を目指すきっかけともなる貴重な事業である。インターシップや教育実習につながる現場体験の出発点として、充実改善策を検討せねばならない。

「教師のお仕事入門」

【参考－実施状況の推移】

【2009～2011 年度】

(年度)	回	錦織小学校			さつき野小・中学校		河南高等学校	
		1	2	3	1	2	1	2
2009	人数	42	52	19	7	7	7	9
2010		37	43	25	7	17	9	
2011		26	38	24	20	8	9	8

【2012～2014 年度】

(年度)	回	錦織小学校			さつき野小・中学校		河南高等学校		富田林高等学校	
		1	2	3	1	2	1	2	1	2
2012	人数	43	20	18	14	7	8	7	5	3
2013		45	30	23	12	5	9	5	9	5
2014		23	20	15	6	6	15	7	11	10

【2015～2017 年度】

(年度)	回	錦織小学校	彼方小学校	さつき野 小・中学校	河南高等学校	富田林中学校・高等学校 ※2017 年度より、中高一貫校	
		1	1	1	1	1	2
2015	人数	11	16	1	2	2	1
2016		12	12	5	4	8	
2017		7	16	3	7	5	
2018		2	18	9	4	9	

【活動報告】

令和元年度

「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

教職教育センター

I. 令和元年度

1. 組織および配置

令和元年度の教員、職員の配置は次のとおり。

教員：センター長（兼務） 1名

センター教員（兼務） 3名

教職教育担当特任教授 2名

職員：教職支援課 課長1名、係長1名、課員3名

派遣職員2名（合計：専任5名、派遣2名）

センター長および、教職教育担当特任教授の業務内容も変更なく、センター運営に携わった。

教職教育センター室の開室時間

平成21年度 平日 9:00～17:30

土曜 9:00～12:30

平成22～令和元年度 平日 9:00～11:20、12:20～17:30

土曜 9:00～12:30

II. 業務内容

1. 教職支援課の役割

教員免許状を取得するには、教職課程をはじめ、免許状取得に必要な科目の履修が必要である。履修登録時の履修相談に始まり、前年度の内諾から始まる教育実習の事務的な手続きや、教職実践演習や履修カルテに関する業務、教員免許状の申請に関する業務等に携わっている。

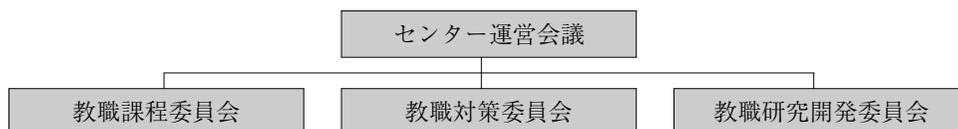
教職に就くためには、学力だけでなく学校現場で必要な実践力が不可欠である。教職支援課

では、教職を目指す学生に対して、入学後の早い段階に学校現場を訪問する行事として「教師のお仕事入門」を実施している。さらに、「学校支援学生ボランティア」や正課である「教育インターンシップ」等への参加を推奨し、大学の授業や自学自習だけでは補えない実践力を養うためのサポート体制を整えている。現場を数多く体験することで、教師として必要な資質能力を深め、教師になる夢を達成するまで継続した支援を行っている。

その他、年間を通して各種行事を計画し、タイムリーな情報提供や各種対策講座を行い学生の知識と実践力の向上及びモチベーション維持を図っている。

2. 委員会

教職教育センター運営会議をはじめ教職課程委員会、教職対策委員会、教職研究開発委員会を3本柱にしてセンターを運営している。



教職課程委員会

第1回

日時：平成31年4月1日（水）11時30分から（教職対策委員会との合同会議）

場所：教職教育センター2階グループ学習室

議題：教職課程委員長選出について

平成31年度教職課程予算について

教育実習について

第2回

日時：平成31年4月10日（水）12時30分から

場所：教職教育センター2階グループ学習室

議題：学力に関する証明書の発行について

（旧々々法下で単位修得した短大卒業生からの発行依頼の対応）

第3回

日時：令和元年10月23日（水）18時30分～

場所：教職教育センター2階グループ学習室

議題：教育実習中のトラブルに関する件

「学士課程の教職課程における自己点検・評価活動」の実施依頼について

第4回

日時：令和元年11月20日 18時30分から

場所：教職教育センター2階 グループ学習室

議題：教育実習中トラブル学生への今後の対応について
教育実習中の問題点と今後の実習のあり方について

第5回

日時：令和2年1月15日 12時30分～

場所：3-208 教室

議題：教育実習の履修規程について
教育実習の成績評価について
教育実習等についての改善方策（継続審議）
編入生の新課程科目履修について（科目等履修生含む）

教職対策委員会

第1回

日時：平成31年4月1日（月）11時30分から（教職課程委員会との合同会議）

場所：教職教育センター2階グループ学習室

議題：教職対策委員長選出について
教員採用試験「大学推薦」について

以降随時、案件の必要に応じて、委員長や関わる委員とで確認や打ち合わせを行った。

教職研究開発委員会

第1回

日時：平成31年4月20日（土）9時55分から

場所：メール会議

議題：委員長・副委員長の選出

以降随時、案件の必要に応じて、委員長や関わる委員とで確認や打ち合わせを行った。

3. 教職課程・教育実習・介護等の体験

《教職課程》

令和元年度入学生

文学部日本語日本文学科、歴史文化学科、教育学部教育学科、人間社会学部人間社会学科、スポーツ健康学科の3学部5学科および教育専攻科、大学院文学研究科国語学国文学専攻、歴

史文化学専攻の2専攻に教職課程が設けられている。

本学で取得できる免許状

学部…幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（国語・外国語（英語）・社会・保健体育）、高等学校教諭一種免許状（国語・外国語（英語）・地理歴史・公民・保健体育・福祉）、特別支援学校教諭一種免許状（領域：知的障害者・肢体不自由者・病弱者）

専攻科…幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状（国語・外国語（英語））

大学院…中学校教諭専修免許状（国語・社会）、高等学校教諭専修免許状（国語・地理歴史）

《教育実習》

教育実習に行く前年度に、教育実習内諾オリエンテーションを実施し出席する人数等で教育実習を希望する学生数を把握している。平成25年度から令和元年度の人数は表1のとおりである。（「教育実習生数」には、科目等履修生を含む。）

表1 内諾オリエンテーションおよび教育実習生数一覧

年度	校種	内諾オリエンテーション出席者数※	教育実習生数
25年度 実習	幼稚園	103	96
	小学校	102	128
	中・高等学校	162	130
	特別支援学校	110	104
	計	477	458
26年度 実習	幼稚園	119	111
	小学校	104	94
	中・高等学校	172	149
	特別支援学校	97	94
	計	492	448
27年度 実習	幼稚園	115	107
	小学校	118	114
	中・高等学校	165	126
	特別支援学校	58	54
	計	456	398
28年度 実習	幼稚園	113	106
	小学校	108	106
	中・高等学校	165	123
	特別支援学校	50	45
	計	456	380

令和元年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

29年度 実習	幼稚園	116	102
	小学校	118	111
	中・高等学校	171	127
	特別支援学校	46	46
	計	451	386
30年度 実習	幼稚園	118	113
	小学校	110	105
	中・高等学校	158	122
	特別支援学校	62	61
	計	448	401
令和元年度 実習	幼稚園	120	116
	小学校	100	94
	中・高等学校	157	124
	特別支援学校	55	55
	計	432	389

※実習前年度に実施

《介護等の体験》

介護等の体験におけるトラブルは例年発生している。トラブルの問題点を検証し、オリエンテーションでの事前指導方法等については毎年改善を重ねてきた。

各施設での体験1か月前「直前オリエンテーション」に加え、支援学校の「直前オリエンテーション」を実施し、体験時における心構えや、体験先で関わる方々への注意点を再度確認し、実習に対しての各人の自覚を促した。

しかし、依然として施設や支援学校へご迷惑をかける事態は発生しているため、引き続き「介護等の体験」意義や内容理解に重点を置き指導に努めていきたい。

表2 介護等の体験者数

	学科	申込者数		終了者数※	
		前期	後期	前期	後期
平成25年度	日本語日本文学科	4	9	4	9
	英米語学科	5	11	5	10
	文化財学科	9	7	7	7
	教育福祉・教育学科	26	116	23	113
	人間社会学科	11	60	8	58
	科目等履修生	0	2	0	2
	計	55	205	47	199

令和元年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

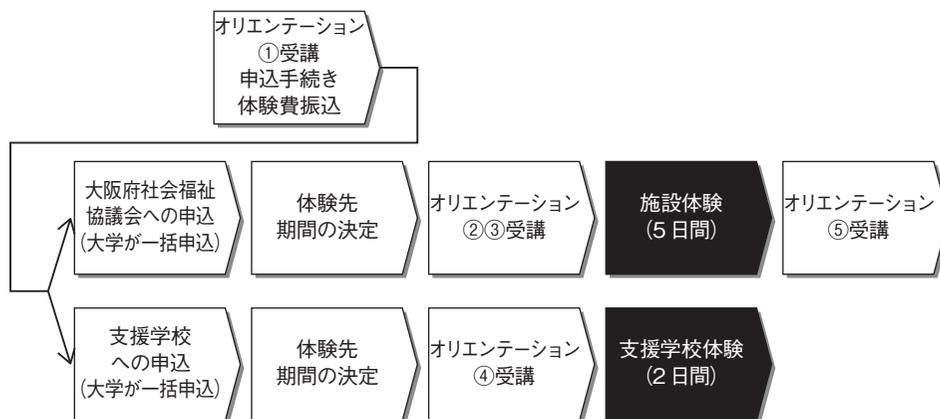
平成 26 年度	日本語日本文学科	10	11	10	10
	英米語学科	1	0	1	0
	文化財学科	1	2	1	2
	教育福祉・教育学科	3	96	3	94
	人間社会学科	2	2	1	2
	スポーツ健康学科	0	64	0	57
	科目等履修生	0	2	0	2
	計	17	177	16	167
平成 27 年度	日本語日本文学科	3	13	2	7
	文化財学科	1	5	1	4
	教育福祉・教育学科	8	73	8	65
	人間社会学科	14	2	9	1
	スポーツ健康学科	14	50	7	44
	科目等履修生	0	0	0	2
	計	40	143	27	123
平成 28 年度	日本語日本文学科	2	19	2	16
	文化財・歴史文化学科	3	15	3	14
	教育学科	5	105	4	100
	人間社会学科	0	10	0	6
	スポーツ健康学科	2	49	2	45
	科目等履修生	0	1	0	1
	計	12	199	11	182
平成 29 年度	日本語日本文学科	1	10	1	10
	文化財・歴史文化学科	12	6	10	4
	教育学科	13	103	13	102
	人間社会学科	0	6	0	6
	スポーツ健康学科	12	29	12	27
	科目等履修生	1	0	1	0
	計	39	154	37	149
平成 30 年度	日本語日本文学科	11	6	11	4
	文化財・歴史文化学科	7	15	6	14
	教育学科	5	129	5	124
	人間社会学科	0	7	0	7
	スポーツ健康学科	4	50	4	49
	科目等履修生	0	2	0	2
	計	27	209	26	200

令和元年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

令和元年度	日本語日本文学科	17	1	16	0
	歴史文化学科	13	4	12	4
	教育学科	5	119	5	113
	人間社会学科	7	7	5	7
	スポーツ健康学科	61	2	55	0
	科目等履修生	0	1	0	1
		103	134	93	125

※…施設5日間、支援学校2日間両方の体験終了者数（予定を含む）

令和元年度「介護等の体験オリエンテーションの流れ」



4. 免許状更新講習

令和元年度 4講習を実施

表3 免許状更新講習参加者数

年度	講座名	領域	実施日	時間	定員	受講者数
平成24年度	特別支援教育講座	選択	8月3日(金)～7日(火)	18	50	57
	幼児教育講習	選択	8月6日(月)	6	60	17
	学校教育講習	選択	8月7日(火)	6	60	21
		選択	8月8日(水)	6	60	8
	計					103
平成25年度	特別支援教育講	選択	8月2日(金)～6日(火)	18	50	44
	幼児教育講習	選択	8月5日(月)	6	60	13
	学校教育講習	選択	8月6日(火)	6	60	4
	中学・高等学校教育講習	選択	8月7日(水)	6	60	4
	計					65

令和元年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

平成 26 年度	特別支援教育講座	選択	8月1日(金)～5日(火)	18	50	50
	幼児教育講習	選択	8月4日(月)	6	60	33
	学校教育講習	選択	8月5日(火)	6	60	12
	中学・高等学校教育講習	選択	8月6日(水)	6	60	7
	計					102
平成 27 年度	特別支援教育講座	選択	7月31日(金)、8月1日(土)、8月3日(月)	18	50	53
	幼児教育講習	選択	8月4日(火)	6	60	20
	学校教育講習	選択	8月5日(水)	6	60	7
	中学・高等学校教育講習	選択	8月6日(木)	6	60	10
	計					90
平成 28 年度	特別支援教育講座	選択	7月30日(土)、8月1日(月)、8月2日(火)	18	50	52
	幼児教育講習	選択	8月3日(水)	6	60	25
	学校教育講習	選択	8月4日(木)	6	60	6
	中学・高等学校教育講習	選択	8月5日(金)	6	60	10
	計					93
平成 29 年度	特別支援教育講座	選択	7月31日(月)	6	50	37
	幼児教育講習	選択	8月2日(水)	6	60	37
	学校教育講習	選択	8月3日(木)	6	60	14
	中学・高等学校教育講習	選択	8月4日(金)	6	60	7
	計					95
平成 30 年度	特別支援教育講座	選択	7月31日(火)	6	50	49
	幼児教育講習	選択	8月2日(木)	6	60	48
	学校教育講習	選択	8月3日(金)	6	60	35
	中学・高等学校教育講習	選択	8月1日(水)	6	60	16
	計					148
令和 元 年度	中学・高等学校教育講習	選択	7月30日(火)	6	60	14
	特別支援教育講座	選択	7月31日(水)	6	50	36
	学校教育講習	選択	8月1日(木)	6	60	24
	幼児教育講習	選択	8月2日(金)	6	60	27
	計					101

今年度の応募状況は定員計 230 名に対し受講者は 101 名。新たな学習指導要領の内容を踏まえた講座を実施した。中学・高等学校教育講習では学校を取り巻く ICT 環境や情報教育の現状把握と、生徒が主体的・対話的な深い学びを実現させるような活用法について、授業実践事例の紹介を交え、実際にタブレット端末に触れながら、ICT 教育のスキル及び、授業方法の技術的向上が図れるような講座とした。学校教育講習では学校教育における、学校図書館の活用実践例を紹介し、学校図書館が児童生徒の「読書センター」及び「学習・情報センター」として機能するような〈アクティブラーニングのための学校図書館の活用法〉について講義した。

それぞれ2コマ連続講義・演習として実施し内容の充実を図った。

5. 大阪大谷大学教職教育センター紀要

「大阪大谷大学教職教育センター紀要」第11号を発行する。

Ⅲ. センター独自のプログラム

センターでは、教員免許を取得するだけにとどまらず、教員に求められる資質を身につけ、学校現場へ送り出すために一貫した学生就職支援を実施している。

具体的には、「実践力向上プログラム」として、1. 教師のお仕事入門 2. 学校支援学生ボランティア 3. 教育インターンシップ 4. 現場実践経験基礎講座があり、人間力を磨く機会となっている。また、「筆答対策プログラム」として、5. キャリア教育科目 6. 基礎学力向上講座（通称：タニ☆スタ6） 7. 教員採用試験対策講座（長期休業期間中実施） 8. タニスパ・タニスボ 9. DVD 講座があり、教員に必要な知識と専門性を高めるための支援を行っている。

その他、各種行事や実技対策講座等を通じ、最新の教育情報を提供している。

1. 教師のお仕事入門

「教師のお仕事入門」は、主に1回生を対象としたプログラムである。

学校現場を訪問し、教員の仕事内容や児童・生徒の様子を知るとともに交流を深めることを目的とし、近隣の小学校、中学校、高等学校のご協力を得て、年に複数回実施している。

今年度の実施日及び訪問校は以下のとおりである。

R1.6.12（火） 彼方小学校 申込者無しの為、中止

R1.9.10（火） 富田林中学校・高等学校 6名

R1.9.17（火） 錦織小学校 28名

R1.9.18（火） 彼方小学校 10名

R1.9.18（火） 河南高等学校 8名

（事業報告（中島智子特任教授）で「教師のお仕事入門」を掲載）

2. 学校支援学生ボランティア

学校現場で先生の補助や児童・生徒の授業支援を行うもので、1回生から参加することが可能である。ボランティア活動に際しては、事前・事後の研修を課し、学生たちへ先生としての心構えを指導するとともにモチベーションの維持を図っている。

令和元年度は既に30名程度の学生がボランティア登録を行い、活動している。活動先の学

校から、わざわざお褒めの電話を頂戴することもあるなど、例年以上に学校現場や子供たちへの状況に対する関心が高まったと捉えている。

3. 教育インターンシップ

教育実習に行く前に学校現場を体感することで、スムーズに教育実習へと臨むことが出来るように設定された正科目で、2回生以上の学生が履修できる。教育現場を知ることで、自分の課題を見つけ、課題を克服し、実践力向上へとつなげている。

令和元年度 教育インターンシップⅠ 参加者 227名※（後期参加予定含む）

教育インターンシップⅡ 履修者 29名

4. 現場実践経験基礎講座（公開講座）

この講座では、現職教員、指導主事等の講師をお招きし、学校現場の現状を講義していただいている。授業は公開とし、現場経験の少ない学生にとって、実践的指導力を身につける貴重な機会となっている。今年度の「現場実践経験基礎講座」は、表4のとおり実施した。

表4 令和元年度「現場実践経験基礎講座」一覧

	月日	テーマ	講師	科目
1回目	5月17日（金）	大阪の子どもたちの生徒指導上の課題と取り組み	中野 悟志	学校教育演習Ⅱ
2回目	5月24日（金）	大阪の子どもたちの学力の現状と課題および学力向上の取り組み等	島末 智成	学校教育演習Ⅱ

5. キャリア教育科目

教員として必要とされる教養や実践力を身につけるための正課授業として、令和元年度は表5の科目が設置された。

学習習慣の定着を図る目的で、毎週授業をおこなえるようなクラスも設置した。

表5 教職基礎演習開講科目

科目名称	期	対象学年	内容
教職基礎演習 (教職教養)	後	2年以上	教職教養に関する基礎的な内容を小グループに分かれ、学習（演習）します。教職教養対策の第一歩となります。
	前	3年以上	教職教養に関する基礎的な内容を小グループに分かれ、学習（演習）します。
	後	3年以上	教職教養に関する予備知識を備えた者を対象とし、小グループに分かれ、演習形式で授業を行います。
	前	4年	教職教養に関する予備知識を備えた者を対象とし、小グループに分かれ、演習形式で授業を行います。（教員採用試験直前期の対策です。）

令和元年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

教職基礎演習 (一般教養等)	後	2年以上	一般教養に関する基礎的な内容について、学習します。予習・復習や課題を確実にこなすことができる者を対象とします。
	前後	3年以上	一般教養に関する基礎知識を備えた者を対象とし、学びたい教科を限定し、演習形式で授業を行います。
	前	4年	一般教養に関する基礎知識を備えた者を対象とし、学びたい教科を限定し、演習形式で授業を行います。(教員採用試験直前期の対策です。)
教職基礎演習 (判断推理・ 数的処理)	後	2年以上	大阪府下の教員採用試験で重要な鍵を握る問題を解くための基礎的な内容を踏まえ、簡単な問題演習を行います。予習・復習や課題を確実にこなすことができる者を対象とします。
	前後	3年以上	判断推理・数的処理の基本問題を解くための基礎知識を備えた者を対象とし、演習形式中心の授業を行います。
	前	4年	判断推理・数的処理の問題演習を行います。(教員採用試験直前の対策です。)
教職基礎演習 (国語・文章理解) エントリーシート 対策含	後	2年以上	わかるようで難しい言い回しや漢字を学び、語彙力の向上を図り、読解問題にも取り組みます。またエントリーシート作成の基礎を学びます。
教職基礎演習 (英語基礎・ 文章理解)	後	2年以上	英語に関する基礎的な内容について小グループで、学習(演習)します。
	前	3年以上	英語に関する基礎的な内容について小グループで、学習(演習)します。
	後		英語に関する基礎知識を育成することを目指し、教員採用試験で出題される問題を用い、演習形式で授業を行います。
	前	4年	英語に関する基礎知識を備えた者を対象とし、小グループに分かれ、演習形式で授業を行います。(教員採用試験直前の対策です。)
教職基礎演習 (理科・数学)	前	3年	理科・数学に関する基礎的な内容について小グループで、学習(演習)します。
教職基礎演習 (ICT教育)	前	2年以上	ICT教育に関する基礎的な内容及び、ICTを用いた授業の進め方について学習(演習)します。
教職基礎演習 (面接)	後	2年以上	面接に関する基礎的な内容について、演習形式で授業を行います
	前	3年以上	面接に関する予備知識を備えた者を対象とし、演習形式で授業を行います。(学校現場での対応を想定した対策です。)
	後		面接に関する予備知識を備えた者を対象とし、演習形式で授業を行います。(学校現場での対応を想定した対策です。)
	前	4年	面接に関する予備知識を備えた者を対象とし、演習形式で授業を行います。(教員採用試験直前期の対策です。)
教育 インターンシップ I	通	2年以上	学校現場の教育活動に接し、実際の課題をより理解することを通じて、教職への意欲を高めます。夏期・春期のいずれかの休業期間を利用し、3~5日間の活動を行います。
教育 インターンシップ II	通	3年以上	学校現場の教育活動に接し、実際の課題をより理解することを通じて、教職への意欲を高めます。年間32時間以上の活動が必要です。

令和元年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

学校教育演習Ⅰ	後	3年以上	教員採用試験の面接で何が問われるのか・自分のどこが教員に向いているのか、自己分析を基に教員としての適性を見極め、面接官に分かりやすく自分を表現する力を身に付けます。
学校教育演習Ⅱ	前	4年	合言葉は、「敵を知り、己を知れば、百戦殆うからず」。教員採用選考テストの面接の実態を学び、様々な面接練習を通して、学校現場で必要とされる教師としての対応力を身に付けます。

(事業報告(浦部孝英特任教授)で「教職基礎演習(面接)」の取組を掲載)

6. 『基礎学力向上講座』

教員に求められる知識の育成と向上を目指し、平成25年度より行っている「基礎学力向上講座」(学内通称名「タニ☆スタ6」)を引き続き実施した。

「大阪府、大阪市、堺市、豊能地区」の試験に出題されている「判断力・思考力を問う問題」の問題が難しくなっていることや、高配点となっていることを考慮し、今年度も昨年同様に特化したクラス編成を講じた。

なお、6限目に補講が設定されることが増えたため、補講出席による講座欠席者対応として、該当する講座を録画して希望者には空き時間に学習可能となるよう措置を講じているが、視聴者も増えていることなどから、30年度に引き続きPCをリプレイスし環境整備に努めた。

令和1(平成31)年度 タニ☆スタ6 受講者数

学科名	クラス		A	B	C	D	計
	学年						
日本語 日本文学科	4			1			1
	3					1	1
	2				2	2	4
	1				4		4
文化財学科 歴史文化学科	4						0
	3				1		1
	2				3		3
	1				8	4	12
教育学科	4		15				15
	3			6	3	3	12
	2			6	9	6	21
	1			1	45	7	53
人間社会学科	4			1			1
	3				1	3	4
	2				1		1
	1				3		3

スポーツ 健康学科	4					0
	3					0
	2					0
	1					0
合計		15	15	80	26	136

7. 教員採用試験対策講座（一般教養対策講座・教職教養対策講座）

夏期及び春期休業期間中を利用して実施する短期（7～8日間）集中の講座
 （「IV. 行事報告」で詳細を掲載）

8. タニスパ・タニスポ

i-pad を利用し、教員採用試験の過去問題を解説したビデオを視聴学習できるシステム。空き時間を利用しての学習が可能であるため、クラブ活動やボランティア活動との両立をする人にとって、有効な学習方法の一つとなっている。

9. DVD 講座

教員採用試験の頻出領域の解説が収録された DVD を視聴し、学習する方法。タニスパ・タニスポと同様、時間を有効活用できる学習方法の一つである。

視聴しやすい環境を整え、年毎に学生の利用頻度も向上している。

IV. 行事報告

センターで実施する行事は、前年度末に翌年度1年間分の行事を計画している。今年度も実習直前オリエンテーションを前倒しにして、年度初めのオリエンテーション期間に全校種実施した。例年行っている夏期休業中の教育職員採用試験受験者に対する教職教育センター開室も引き続き実施した。

1. 一般教養対策講座

教員採用試験で頻出の問題を中心に抑えるべきポイントを学ぶ講座。一般教養を学び直すことで自分の弱点を見つけ、早い時期からの学習習慣が身につくよう実施している。特に本学学生の苦手な領域については、基礎を中心に学べるように考慮している。

8月21日から30日までのうち8日間実施。

2. 教職教養対策講座

教職教養の初歩的な内容を押さえ、基礎的な問題に対応できる力を身につけることを目標に9月2日から10日までのうち5日間実施。

表7 参加者人数

学科	学年	一般教養講座	教職教養講座	計
日本語日本文学科	3年	3	3	6
歴史文化学科	3年	2	2	4
	2年	1	1	2
教育学科	3年	3	3	6
	1年	2	3	5
スポーツ健康学科	3年	-	1	1
計		11	13	24

傾向として、全体的に参加人数が減っていきいているうえに、学部により受講にかなり偏りがあることが顕著となってきている。春季休業期間中も一般教養対策講座及び教職教養対策講座を実施し、それぞれ30名を越える申し込みがあった。

なお、昨年度同様、教職教養対策講座の受講生対象の短期特別演習を実施し、問題演習に取り組み、知識の定着とさらなる実力アップを図る。

3. 実技対策講座

6月中旬から水泳練習を開始し、8月は例年通り器械体操やボール運動の対策も合わせて行った。日程と参加者数は以下の通りである。

表8 体育実技対策講座 参加者

	日程	時限	講座内容	参加者数
1	6月8日(土)	2限目	水泳	10
2	6月19日(水)	4限目	水泳	8
3	6月22日(土)	2限目	水泳	13
4	8月5日(月)	3限目	器械体操等	6
		4限目	水泳	9
5	8月7日(水)	2限目	水泳	8
		3限目	器械体操等	8
6	8月8日(木)	1限目	器械体操等	12
		2限目	水泳	12

今年度も教員採用試験の動向を加味した講座内容とした。

4. その他

例年、教育学部学校教育専攻の1年生を対象に「教職教育センターツアー」を実施し、教職教育センターの取組みや利用方法などを説明するとともに実際に情報機器や資料などに触れ、理解を深めてもらう機会としている。また、人間社会学部の基礎ゼミⅠの時間の一部で教職教育センターの取組みについて説明する機会を得ている。

今年度は新たにその範囲を広げる機会を得た。

人間社会学部のキャリア教育の授業の中で進路の選択肢の一つとして「教員採用試験の動向と対策」について、また、文学部のキャリア教育の授業の中では、教育学部学校教育専攻の学生同様に「教職教育センターの取組みと活用方法等」を伝える機会を得た。いずれも、教職志望学生が早期より、教職教育センターを身近に感じ、計画的なセンターの取組みを知ること、進路実現の一助となるようにと願い活動しているが、次年度以降も継続したいと考えている。

ここに挙げた以外の行事実施状況は、次頁表10のとおりである。

次年度も教職教育センター事業活動においてセンター教職員一同、教職を目指す学生の支援を一層充実させていきたい。

令和元年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

表 10 令和元年度 教職教育センター 年間行事一覧

	月	日(曜)	時間	行事名	内容	
新年度 オリ	3末 4初	オリ 期間中		新入生対象 教職教育センターオリエンテーション	教職教育センターの利用案内&行事について	
				2~4回生教職課程履修者・履修予定者対象 教職教育センターオリエンテーション	教職教育センターの利用案内・行事・教職課程履修上の注意	
2019 年度実習	3	30日(土)	2限 10:45-12:15	直前オリエンテーション(小)	実習の必要書類配付と説明	
		8日(月)	2限 10:45-12:15	直前オリエンテーション(中・高)	実習の必要書類配付と説明	
		8日(月)	3限 13:05-14:35	直前オリエンテーション(特支)	実習の必要書類配付と説明 直前の注意	
	2020 年度実習 (予定者)	3	29日(金)	3限 13:05-14:35	内諾オリエンテーション(特支)①	次年度実習のための希望調査
			4日(水)	4限 14:50-16:20	内諾オリエンテーション(中・高)	次年度実習のための内諾手続きについて(内諾冊子の配付・説明)
		6	12日(水)	5限 16:35-18:05	内諾オリエンテーション(小)	次年度実習のための内諾手続きについて(内諾冊子の配付・説明)
			17日(水)	5限 16:35-18:05	内諾オリエンテーション(特支)②	実習校の発表とリーダーの選出
2019 前期	4	13日(土)	1・2限 9:00-12:15	介護等の体験オリエンテーション②	現在の福祉現場について	
		8日(水)	5限 16:35-18:05	介護等の体験オリエンテーション③	福祉施設について 実習上の注意事項	
	6	5日(水)	5限 16:35-18:05	介護等の体験オリエンテーション④	特別支援教育について	
		15日(土)	1限 9:00-10:30	介護等の体験オリエンテーション④ <予備日>		
		19日(水)	5限 16:35-18:05	介護等の体験オリエンテーション⑤(和泉)〔予定〕		
	10	9日(水)	5限 16:35-18:05	介護等の体験オリエンテーション⑤(藤井寺)〔予定〕	支援学校について 実習上の注意事項	
		30日(水)	5限 16:35-18:05	介護等の体験オリエンテーション⑤-2(和泉)〔予定〕		
		1日(水)	5限 16:35-18:05	介護等の体験オリエンテーション⑤-3(和泉)〔予定〕		
	2019 後期	4	10日(水)	5限 16:35-18:05	介護等の体験オリエンテーション①	学校教職課程と「介護等の体験」 申し込み手続きについて
			13日(土)	3限 13:05-14:35	介護等の体験オリエンテーション① <予備日>	
		9	11日(水)	1・2限 9:00-12:15	介護等の体験オリエンテーション②	現在の福祉現場について
			25日(水)	5限 16:35-18:05	介護等の体験オリエンテーション③	福祉施設について 実習上の注意事項
			11日(水)	3限 13:05-14:35	介護等の体験オリエンテーション①	学校教職課程と「介護等の体験」 申し込み手続きについて
2020 前期	9	28日(土)	1限 9:00-10:30	介護等の体験オリエンテーション① <予備日>		
免許状 申請	11	6日(水)	5限 16:35-18:05	教員免許状一括申請説明会①	2020年3月免許状取得見込みの4回生・専攻科生・大学院生対象 教員職員免許状授与申請書の配付と説明	
		1日(水)	2限 10:45-12:15	教員免許状一括申請説明会②	2020年3月免許状取得見込みの4回生・専攻科生・大学院生対象 教員職員免許状授与申請手数料の納付と今後の手続きについて	
教職オリ エンテー ション	1 回生	6日(火)	昼休 12:20-13:00	1回生 教職オリエンテーション 学校の先生になりたい人へ	学校の先生になるには？	
		12日(日)	昼休 12:20-13:00	1回生 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって	どんな勉強をするの？	
	2 回生	5日(火)	昼休 12:20-13:00	2回生 教職オリエンテーション 教員に求められるもの	<小・中・高・特支・政令指定都市の幼> 勉強の進め方、資質の向上について講義	
		10日(水)	5限 16:35-18:05	2回生 教職オリエンテーション 教職を目指すにあたって	<小・中・高・特支> 勉強の進度チェックおよび資質の向上について講義	
	3 回生	5日(水)	5限 16:35-18:05	3回生 教職オリエンテーション 教員採用試験に向けて	学習方法・情報収集について 幼稚園を除く全校種 外部講師による講演	
		10日(水)	5限 16:35-18:05	3回生 教職オリエンテーション 筆答試験対策を中心に	<小・中・高・特支・政令指定都市の幼> 教員採用試験の傾向と対策 次年度の採用試験に向けて、外部講師による講演	
		11日(水)	5限 16:35-18:05	3回生 教職オリエンテーション 教員採用試験対策	秋から始める勉強について 教員採用試験体験談(4回生との交流)	
	幼・保 オリエン テーシ ョン	1 ・ 2 回生	1日(水)	5限 16:35-18:05	3回生 教職オリエンテーション 教員採用試験情報 一般・教職教養対策を中心に	次年度の教員採用試験に向けての最新情報と対策 外部講師による講演(有料講座の募集案内を含む)
			未定	未定	3回生 教職・幼稚園オリエンテーション 幼稚園教員の魅力と採用試験について	卒業生との懇談会 有料講座の日程に併せて実施
		2 ・ 3 回生	6日(火)	昼休 12:20-13:00	1・2回生 幼稚園・保育所オリエンテーション 幼稚園教員・保育士を目指すにあたって	幼稚園教員・保育士希望者 幼稚園の先生・保育士になるには？ (キャリア支援課と合同実施)
12日(金)			昼休 12:20-13:00	1回生 幼稚園・保育園オリエンテーション	勉強の進め方、資質の向上について講義	
10日(水)			5限 16:35-18:05	2・3回生 幼稚園・保育所オリエンテーション	秋から始める勉強について 教員・保育士採用試験体験談 4回生との交流・勉強の進度チェック (キャリア支援課と合同実施)	
全	5日(火)	昼休 12:20-13:00	3回生 幼稚園・保育所オリエンテーション 幼稚園教員・保育士を目指すにあたって	学習方法・情報収集について (私立幼稚園を含む) (注)予備日は開講しないことあります。		
	10日(水)	5限 16:35-18:05	幼稚園・保育所・福祉施設ガイダンス	採用試験に向けての学習対策 外部講師による講演(キャリア支援課と合同実施)		

*使用する教室は、掲示板でお知らせします。日程や時間等が変更になることもありますので、必ず掲示板で確認してください。

令和元年度「大阪大谷大学教職教育センター」活動報告

	月	日(曜)	時間	行事名	内容	
お仕事入門	6	12日(水)	11:00-12:30	1回生 教師のお仕事入門(富田林市立彼方小学校)	授業見学&児童・生徒との交流 グループに分かれて、教室を訪問	
	9	19日(金)	11:00-15:00	1回生 教師のお仕事入門(富田林市立錦織小学校)		
	2	未定	未定	1回生 教師のお仕事入門(小学校・中学校・高等学校)		
4回生対象 教員採用試験対策講座	筆記	4	20日(土)	2限 10:45-12:15	4回生 教員採用試験 直前筆答対策講座	<小・中・高・特支・政令指定都市の幼> 直前対策 外部講師による講演
		5	29日(水)	5限 16:35-18:05	4回生 幼稚園教員採用試験 筆答対策講座	幼稚園教員希望者 直前対策 外部講師による講演
	面接	6	19日(水)	4限 14:50-16:20	4回生 教員採用試験 特別支援教育対策講座	採用試験で押さえておくポイントについての講義
		5	17日(金)	5限 16:35-18:05	4回生 教員採用試験 面接対策講座	エントリーシート・面接対策(主に集団面接) 注意と心得及び自己PR
		21日(火)	4限 14:50-16:20	4回生 教員採用試験 面接対策講座 <予備日>		
		6	26日(水)	4・5限 14:50-18:05	4回生 教員採用試験 面接対策講座 実践編	模擬面接(集団・個人)・集団討論対策 心得及び実践
	7	24日(水)	4・5限 14:50-18:05	4回生 教員採用試験 面接対策講座 二次編	模擬面接(個人)・集団討論・模擬授業対策等 講義及び実践 二次試験対策	
6~8月	随時	随時	4回生 面接・グループワーク練習(集団・個人・討論・場面指導・模擬授業等)	(事前申し込み制) 詳細は、教職教育センター窓口及び掲示もしくは、HPにてお知らせ		
教職・教師塾	説明会	4	12日(金)	昼休 12:20-13:00	3・4回生 大阪市教師養成講座説明会	大阪市教育委員会担当講師による説明
		4	18日(木)	昼休 12:20-13:00	3・4回生 堺・教師ゆめ塾説明会	堺市教育委員会担当講師による説明
	対策講座	4	24日(水)	4・5限 14:50-18:05	3・4回生 教採・教師塾対策講座③	教員採用試験・教師塾入塾のための対策 エントリーシート作成、面接の心得等について説明と練習
		2	19日(水)	2限 10:45-12:15	2・3回生 教採・教師塾対策講座①	
		3	4日(水)	2限 10:45-12:15	2・3回生 教採・教師塾対策講座②	
	実技	6~	随時	随時	教員採用(幼稚園含む)特別対策講座 園園工作・音楽実技・小論文他	(事前申し込み制) 詳細は、教職教育センター窓口及び掲示もしくはHPにてお知らせ
		6	8日(土)	2限 10:45-12:15	教員採用試験 水泳対策講座	採用試験(水泳)の心構えと押さえておくポイントを交えた実技練習
		6	15日(土)	2限 10:45-12:15	教員採用試験 水泳対策講座	
		6	22日(土)	2限 10:45-12:15	教員採用試験 水泳対策講座	
		8	5日(月)	午後	教員採用試験 体育実技対策講座	採用試験(体育実技・水泳、器械体操、ボール運動、ハードル等)の心構えと押さえておくポイントを交えた実技練習
8	7日(水)	午後	教員採用試験 体育実技対策講座			
8	8日(木)	午前	教員採用試験 体育実技対策講座			
講師登録説明会	9	24日(火)	5限 16:35-18:05	4回生 講師登録説明会	講師の採用について 概要説明と登録の方法について説明	
	10	25日(金)	5限 16:35-18:05	4回生 講師登録説明会 <予備日>		
教採学内セミナー	4	9日(火)	3・4限 13:05-16:20	4回生 教採学内セミナー <大阪府・大阪市・堺市・豊能地区>	教育委員会担当講師による説明会 各自治体の教員採用試験について、直接説明を聞く事ができます	
	4	17日(水)	4・5限 14:50-18:05	4回生 教採学内セミナー <神戸市・川崎市>		
	4	24日(水)	6限 18:15-19:45	4回生 教採学内セミナー <和歌山県>		
	5	14日(火)	5限 16:35-18:05	4回生 教採学内セミナー <奈良県>		
	12	4日(水)	4・5限 14:50-18:05	3回生 教採学内セミナー (近隣教育委員会)		
ボランティア	4	9日(火)	2限 10:45-12:15	学校支援学生ボランティア説明会・研修会	2019年度にボランティア活動を行う予定の学生対象 ボランティア登録の手続き、ボランティア先の探し方など	
	3	4日(水)	3限 13:05-14:35	学校支援学生ボランティア修了式・報告会	2019年度にボランティア登録をし、活動を行った学生対象 修了証書授与と体験談の発表	
教職模試	4	13日(土)	午前	教職模試①(出題:時事通信出版局) 有料	(幼・小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文	
	4	27日(土)	午前	教職模試②(出題:東京アカデミー) 有料	(小・中・高) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文	
	5	11日(土)	午前	教職模試③(出題:時事通信出版局) 有料(補助あり)	(幼・小・中・高・特支) 教職教養・一般教養、専門教養、論作文	
	6	1日(土)	午前	教職模試④(出題:時事通信出版局) 有料(補助あり)		
	11	30日(土)	午前	教職模試⑤(出題:時事通信出版局) 有料		
	4	11日(土)	午前	教職模試⑥(出題:東京アカデミー) 有料	(小・中・高) 教職教養・一般教養、専門教養	
	4	21日(土)	午前	教職模試⑦(出題:協同出版) 有料	(小・中・高) 教職教養・一般教養、専門教養	
有料講座	長期	4-1	クラスごとに設定	6限 18:15-19:45	タニキスタ6 基礎学力向上講座	時事通信出版局・東京アカデミー担当講師による講義 次年度以降の採用試験に向けての学習対策
		7	5日(金)	昼休 12:20-13:00	教員採用試験対策講座案内他 説明会	有料講座の募集案内や情報収集方法など
	短期集中	8-3	未定	未定	一般教養対策講座	時事通信出版局担当講師による講義
9-2	未定	未定	未定	教職教養対策講座	次年度以降の採用試験に向けての学習対策	

※使用する教室は、掲示板でお知らせします。日程や時間等が変更になることもありますので、必ず掲示板で確認してください。

大阪大谷大学教職教育センター紀要編集規程

平成 21 年 12 月 2 日制定

(目 的)

第 1 条 この規程は、大阪大谷大学教職教育センター規程第 3 条第 1 項第 10 号に基づき、教職教育研究開発に関する事業として発行する大阪大谷大学教職教育センター紀要（以下「紀要」という。）の編集等に必要な事項について定め、もって円滑かつ適切な発行に資することを目的とする。

(発 行)

第 2 条 紀要の発行は、年 1 回を原則とする。

(組織・募集・編集等)

第 3 条 紀要を発行するために編集会議を置く。

- 2 編集会議の構成員は教職研究開発委員会の議を経て選出される。
- 3 原稿の募集、編集は、編集会議において行なう。

(掲載内容)

第 4 条 紀要への掲載内容は、原則として教職教育ならびに教職支援に関するもの、または編集会議において必要と認められたものとする。

(投稿者の資格)

第 5 条 投稿者は原則として本学の専任教員、大学院生ならびに事務職員、及び編集会議が認めた者とする。ただし、大学院生の場合は指導教員の推薦状を要する。

(原稿の種類)

第 6 条 原稿の種類は、次の各号のいずれかに該当するものとする。

- (1) センターの運営ならびに事業推進に関する報告
- (2) 論文、研究ノート、資料紹介、研究動向、学术交流報告、書評、研究・資料機関紹介および文献紹介等

(原稿の区分)

第 7 条 原稿は、投稿原稿および編集会議から執筆を依頼する依頼原稿とする。

- 2 論文および研究ノートについては、投稿原稿を原則とする。ただし、編集会議で必要と認められた場合には、この限りではない。
- 3 依頼原稿は、審査は行わず編集会議の判断によって掲載する。
- 4 書評および文献紹介については、原則として、編集会議において対象とする書籍を決定

し、原稿を依頼する。

(投 稿)

第8条 投稿原稿は、原則として未発表のものに限り、他誌等への二重投稿は認めない。ただし、投稿を受付けた編集会議の企画等によって発行される報告書等への同時または並行の投稿については、二重投稿とはみなさない。

2 投稿に関して必要な事項は、別に定める。

(審 査)

第9条 投稿原稿は、複数の審査員の査読に基づいて、編集会議内で審査を実施する。

2 編集会議は、投稿原稿の審査に関する審査基準を定めることができる。

(審査員)

第10条 審査員は、各年度の編集会議において委嘱された者とする。

(評 価)

第11条 編集会議は、審査員に対して次に掲げる評価区分に基づき査読を依頼する。

- (1) A 評価 無条件に掲載できるもの
- (2) B 評価 審査員からの軽微な訂正・改善要請に応じた修正がなされた場合に掲載できるもの
- (3) C 評価 再審査とし、1か月程度の期間内に訂正・改善可能なもので、書き直し再投稿を期待するもの
- (4) D 評価 掲載不可とするもの

(審査の期間)

第12条 審査期間は、概ね1か月ないし2か月を標準とする。

(審査結果の通知)

第13条 審査結果の通知は、その方法および内容に関して編集会議で個々の投稿原稿に即して検討し、行なう。

2 審査結果の理由および訂正・改善すべき点については、編集会議の責任のもとに投稿者に通知する。この場合においては、審査員の匿名性の維持に配慮するものとする。

第14条 審査結果の通知に基づいて、指定期間内に修正された論文等の掲載の可否については、編集会議が判断するものとし、その結果を投稿者および審査員にそれぞれ通知する。

2 編集会議は、審査員の審査結果および編集会議の査読結果を踏まえて、最終的な審査結果を決定し、掲載の可否等を判断する。

(証明書の発行)

第15条 編集会議は、投稿原稿を紀要に掲載した場合（掲載を決定した場合を含む。）、投稿原稿の執筆者に対し、必要に応じて、査読付き原稿（掲載を決定した場合には、査読付き掲載

決定原稿)である旨の証明書を発行することができる。

(校 正)

第16条 採用原稿の執筆者校正は、2回までとする。

- 2 校正時の加筆・修正を含む改訂は最小限とし、大幅な変更は認めない。
- 3 編集会議の指示に従わずに、校正段階で論文内容の大幅な変更が行なわれた場合には、紀要への掲載を取り消すことがある。

(原稿の電子化・公開)

第17条 掲載された論文等の電子化ならびにインターネット公開については、執筆者の許諾に基づいてセンターが行なうものとする。

- 2 インターネット公開にあたっては、データの複製(印刷・ダウンロード等をいう。)は調査研究・教育または学習を目的としている場合に限定されることを明示する。

附 則

この規程は、平成21年12月2日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年7月7日から改正施行する。

附 則

この規程は、平成27年3月1日から改正施行する。

大阪大谷大学教職教育センター紀要
第 11 号

2020 年 3 月 15 日発行

編集発行 大阪大谷大学教職教育センター
〒584-8540 大阪府富田林市錦織北 3 丁目 11-1
電話 (0721) 24-9891